

道の駅あいづ 湯川・会津坂下

所在地：福島県河沼郡湯川村 敷地面積：19,597.84㎡ 延床面積：1,934.00㎡
 主要用途：道の駅 建築面積：2,165.21㎡ 構造：木造1階建て



樹状トラスの連なりを抜けて、田園風景の向こうに会津磐梯山を見る。樹状トラスの部材は105×105～150×150でほとんどが4m材。



建物中央の「人のひろば」。樹状トラスによる15m角の無柱空間。



樹状トラスは6枚の平面トラスの組合せによるシンプルな構成。



2方向トラスにより壁が不要で、内部の活動がみな透けて見える。



冬の厳しい気候に対応し且つ内外をつなぐ雁木や深い軒等の中間領域。



国道側から見た夕景。地域の景観や雪の多い気候風土に配慮した、軒の深いシンプルな切妻屋根の外観。



「人のひろば」でのコンサートの様子。



道のひろばで高校生が踊りを披露。



レストランで新蕎麦と三味線の夕べ。思わず踊り出す参加者の人々。

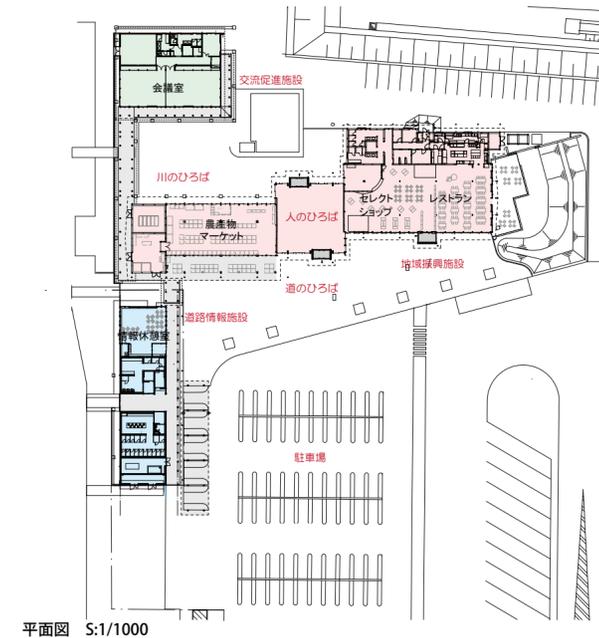
「道の駅あいづ 湯川・会津坂下」は、物販や飲食とともに地域の人々が参加する憩いや楽しみ、活動や発表の場として、福島県会津地方の湯川村と会津坂下町が共同で整備し、2014年10月にオープンした。

地域の様々な活動の展開のための賑わいの空間として、地元会津の山の木を用い、地域の素材生産者が伐り地域で製材・乾燥し、地域の大工が加工・施工するという、会津地域の木材・木造建築を巡る生業のシステムのモデルとなるプロセスを辿って、新しい架構による地域の象徴となる空間を持つ建築物を目指した。

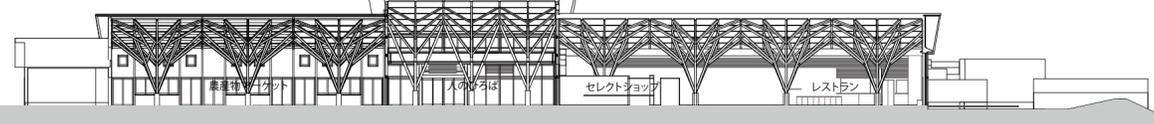
本施設は構造材を含めすべて地域の製材を用いた。樹状トラスは、2方向の水平力を負担することで壁が不要となり、明るく一体的でやさしい内部や建物と広場の連続性をつくり出しつつ、その形状を可変させることで複数のスパンを柔軟に実現している。また細く短い材を組み合わせて屋根を多くの支点で支える仕組みは、流通製材クラスの小径・非長尺材が主な地域の木材生産体制への対応である。

地域の木材活用については、設計の初期段階から素材生産者、製材者と折衝を進めて地域の木材生産体制を把握し、設計に反映させた。また施工者決定の前から伐採、乾燥等の木材調達にとりかかるべく木材の分離発注を行った。

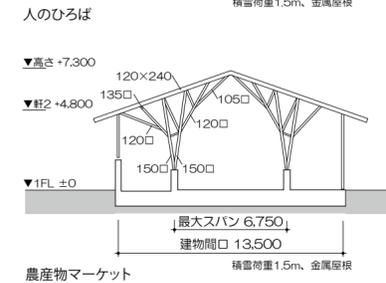
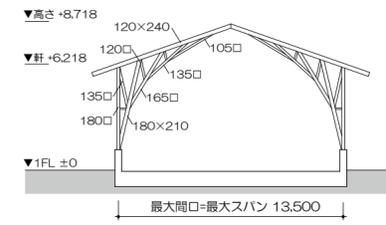
地域と一体になって試行錯誤した結果、地元の素材生産者・製材者と県内大手木材工場がそれぞれの得手を活かして連携する、新しい地域の木材供給システムの足がかりとなった。



平面図 S:1/1000



地域振興施設 桁行断面図 S:1/400 必要なスパンに応じ形状を調整しつつ樹状トラスが施設全体に連続し、場の一体感をつくり出す。



地域振興施設 梁間断面図 S:1/300

樹状トラスの枝の角度を調整することで、ひとつのシステムで色々なスパンに対応することができる。



大入れや納差し等の単純な架構の仕口。



工場での仮組検査。



現場で1スパンの1/4を地組み。



地組したユニットの建込み。



ユニット間の部材は現場取付け。



「人のひろば」の建て方の様子。